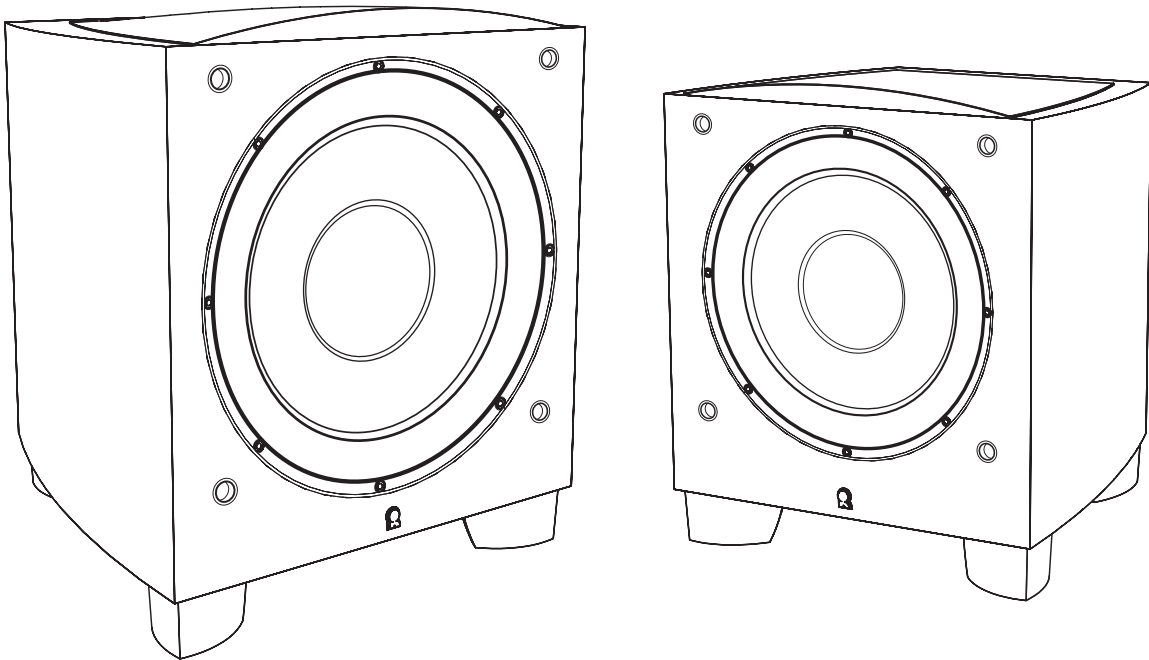


REVEL[®]

PERFORMA³[™]

B112V2/B110V2 Subwoofer

クイック・スタート・ガイド



目次

Revel Performa3 V2 Subwooferについて	2
B112V2/B110V2の概要	3
サブウーファーの設置に関する注意点	4
シングルSubwooferの設置、2基のSubwooferの設置、4基のSubwooferの設置	
接続する.....	6
内部クロスオーバーをサラウンド・プロセッサに接続、ステレオ・プリアンプに接続、マルチSubwooferに接続、	
トリガーおよび電源接続	
Subwooferの手入れ	9
仕様	10
限定保証書	10

REVEL PERFORMA3 V2 SUBWOOFERについて

Revel Performa3 V2 subwooferをお買い上げいただき、ありがとうございます。B112V2およびB110V2は1,000W RMS(2,000Wピーク)内部アンプによって強化されており、カスタム・デザインのトランスデューサーを特長としています。このトランスデューサーは、ワンランク上の繊細で豊かな音楽性があり、洗練されたサウンドと、これまでにない暴力的で本能的なインパクトを一体化させています。一体型パラメトリック・イコライゼーション(PEQ)システムを備えた内部アンプのハイパワー。その結果、ホーム・エンターテインメント・システム向け、高忠実度のバス・パフォーマンスの新たなスタンダードが生まれました。

B112V2およびB110V2はそれぞれ、12インチと10インチ・バージョンの、真新しくコートされたペーパー/パルプの低周波トランスデューサーを特長としています。このトランスデューサーは、これら2基のsubwooferモデルでの使用向けに特別に設計されました。この新しいドライバー向け設計の主な目標は、非常に高い音圧レベル(SPL)で極度の低周波を生み出しながら、この上ない低歪みを維持することでした。通常は、このクオリティを両立させることはできません。この新しいユニットは、ボイスコイル、スパイダー、サラウンド間の精密な工学バランスを維持しています。これが、Klippel最適化された高リニアリティーのモーター形状を組み込むことにより、低歪みで前記3つの構成部品全てのリニア・モーションを生み出します。

- 高耐熱のファイバーグラス巻型に巻かれたきわめて長い(50mm)2層銅パター・ボイスコイルにより、低歪みで劇的に増強された出力に対して、このトランスデューサーがきわめて大きい範囲を移動(Xmax)します。
- 高温Nomex®スパイダーは革新的なロールデザインを特長としており、機械ストレスを均等に配分し、高振幅での動作中にリニアコーン・モーションを保つのに役立っています。
- オーバーサイズのSBRゴムエッジにより、移動質量のコントロール強化を実現しながら、より優れたリニア・エクスカッションが可能になっています。この素材は、一般的な発泡体の覆いにありがちな物理的損傷にも耐えられます。

コートされたセルローズ/パルプのコーンやダストカップといった部品は空気の入れ換えがしやすいようにベントされており、音のロスを減少させ、出力を増大させています。

トランスデューサーの大容量のKlippel最適化磁気部品(B112V2およびB110V2のどちらも19.2ポンド)は空気の流れを改善し、乱流を減少させるフレアベントを備えたダブルスタック・セラミックの5マグネットを特長としています。これにより、バス出力が増強され、低歪みを実現しました。厚みのあるモーター・ショートリングがインダ

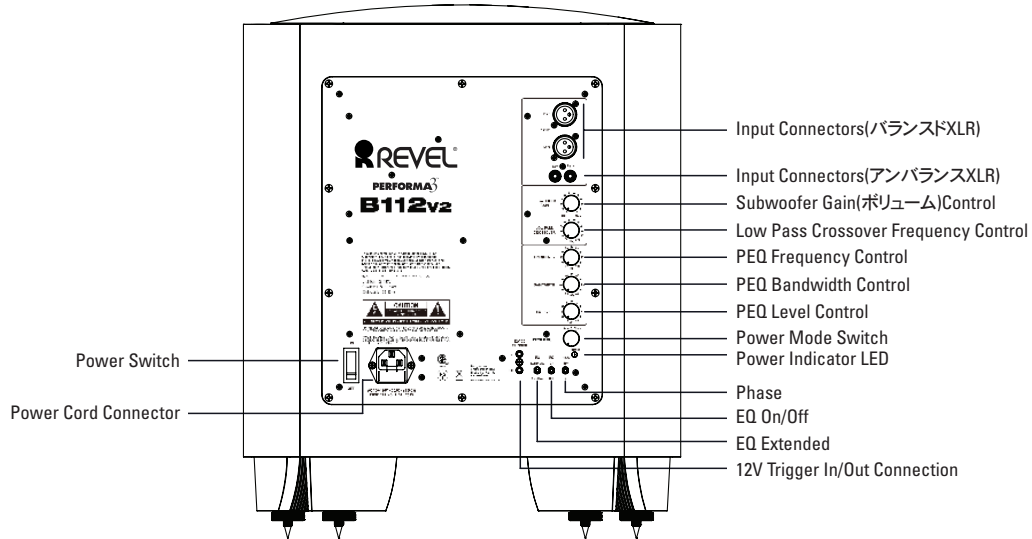
クタンス・リニアリティーを改善し、さらに歪みを減少させ、出力を増強しています。そして、背面板の特別な冷却ベントが許容入力を増大させ、電力圧縮を減少させます。合わせて、これらの変更が以前のバージョンよりもリニア・エクスカッションを82%向上させました。

キャスト・アルミニウムフレームが完全にベントされ、過度の背圧による音のロスを抑えています。また、このフレームは寸法を安定させ、正確な機械精度を維持して、非常に高い精度でのトランスデューサーの組み立てを可能にしています。構造と質量により、フレームが非常に強靱になっていて、ボイスコイルが過熱しません。

B112V2およびB110V2のエンクロージャーは、スプリットを防ぐ切れ目のない木の層で成形されています。このエンクロージャーは要所に配置されたブレイシングを特長としていて、振動やカラーレーションの可能性を排除しています。美しく、現代的なエンクロージャーは、ハイグロス・ピアノブラック、ウォールナット、またはホワイト仕上げです。これは、自動車の仕上げ品質を超えるイタリアの高級キャビネットメーカーにより開発・管理された工程のおかげです。

開発中、あらゆるRevelラウドスピーカーモデルは、特別に独立したダブルブラインド・リスニング研究所で競合モデルと比較されます。このプロセスでは、最新の音響心理研究を活用してこれらのリスニングテストが有効であることを確認し、生産に入る許可を受ける前に、全てのRevelラウドスピーカーが競合機よりも優れていることを検証できます。

B112V2/B110V2の概要 (注意: B112V2およびB110V2のリアパネルも同様)



Input connectors: ステレオ・プリアンプの出力、または左右どちらかの入りにサラウンド・プロセッサのsubwoofer出力を接続します。バランスド(XLR)およびアンバランス(RCA)コネクタが使用可能です。入力は公称0dBVで、最大+12dBVアンバランスド/最大+18dBVバランスドです。XLR入力は2番ピンがホットです。

Low Pass Crossover: 可変式50Hz~150Hzクロスオーバーはsubwooferがメインスピーカーと調和する周波数を決定します。コントロールを「LFE」に変えた場合、クロスオーバーはバイパスモードになり、全てのクロスオーバー設定はプロセッサまたはAVRで設定します。

注: このコントロールはシステムのメインスピーカーの周波数帯域に限定されません。ローパス・クロスオーバー・コントロールを調整して正しくサテライト・スピーカーに調和させます。調和が正確である場合、楽器の音色やクロスオーバー領域の音が正しいレベルで聞こえます。subwoofer周波数やサテライト周波数と比較して大きすぎたり、ソフトすぎることがあります。

Subwoofer Gain control: このコントロールを使用して、システムの他のスピーカーに対するsubwooferのボリュームを調整します。

Parametric Equalization (PEQ) controls: これらのイコライゼーション・コントロールは、特別なリスニングルームのリスニング位置で、主要なルームモードを調整します。パラメトリック・イコライザーには周波数、帯域幅、1/バンド周波数のEQレベル調整を行う可変コントロールが含まれます。これらのコントロールを使用するには、まずEQスイッチを「オン」にセットする必要があります。

注: イコライゼーション・コントロールを適切に調節するには、特別な測定装置が必要です。Revel®公認販売店は、確実に最適な結果を出す適切な装置を使用して、適切な測定をすることができます。

EQ Frequency control: 特定の問題領域の中央周波数を選択します。レンジは32Hz~100Hzです。

EQ Bandwidth control: イコライザーが有効になる周波数レンジを設定します。レンジは0.1オクターブ~0.6オクターブです。数字が高いほど、影響を受ける周波数レンジが広がります。

EQ Level control: EQ周波数コントロールにより、ブーストまたはカットが選択された周波数にどの程度適用されるかを調整することが可能です。このコントロールは-12dBから最大で+3dBまで調整できます。

EQ On/Off switch: パラメトリックEQコントロールの使用可能/使用不可(周波数、帯域幅、EQレベル、位相はコントロールできません)。

Extended On/Off switch: 強化モード(オン)では、B112V2では29.5Hz~22.7Hz、B110V2では32Hz~23.7Hzへと-3dBポイント移動します。

注: 強化設定を使用すると、subwooferが実現できる最大ボリュームレベルが低下します。音量を上げていく途中で低音歪みが聞こえる場合は、「強化」設定の使用を中止します。

Phase switch: フロントスピーカーに対するsubwoofer出力の位相を調整します。適切な位相調整はsubwooferの設置位置や聴く人のポジションといった可変要素によっても決まることがあります。このスイッチは基本的なリスニング位置での中低域の最大出力を設定します。

12V Trigger In/Out connectors: subwooferのパワーモード・スイッチが「トリガー」に設定されていて、接続が12Vトリガーで5V~12Vになっている場合は自動的にsubwooferの電源が入り、接続電圧が解除された場合は電源が切れます。subwooferの電源が入っていれば、Performa3V2 subwoofer、または他のトリガー可能なデバイスを追加で使用するための12Vトリガー出力コネクタで、12Vトリガー信号が使用可能です。

Power Mode switch: どのようにsubwooferの電源が入ったり切れたりするかを決定します。

- このスイッチを「オート」ポジションにセットし、電源スイッチを「オン」にセットすると、いずれかの入力でオーディオ信号を検出した時にsubwooferの電源が自動的に入り、10分間オーディオ信号を受信した後、自動的にスタンバイモードに入ります。
- このスイッチが「オン」ポジションにセットされていて、電源スイッチが「オン」にセットされている場合、subwooferの電源が入り、電源スイッチが「オフ」にセットされるまで、スイッチはオンのままです。
- このスイッチが「トリガー」ポジションにセットされており、電源スイッチが「オン」で、電圧が12Vトリガー入力接続になっている場合、自動的にsubwooferの電源が入り、電圧がかかっている場合、その状態のままです。12Vトリガー入力接続で電圧がかかっていない場合、自動的にsubwooferの電源が切れます。

Power Mode indicator: 電源スイッチがオンにセットされており、入力および/または12Vトリガー信号がある場合、LEDが緑色で光ります。電源スイッチはオンにセットされているが、10分経っても信号が検出されない、またはトリガー電圧がかかっていない場合は、LEDが赤色で光ります。電源スイッチがオフにセットされている、またはユニットに電力が来ていない場合は点灯しません。

Power switch: このスイッチが「オン」にセットされている場合、subwooferのオン/オフ状態はパワーモード・スイッチ(上記の説明をお読みください)の設定によります。電源スイッチが「オフ」にセットされている場合、subwooferの電源は切れており、自動的に電源をオンにすることはできません。

休暇時のように、長期間subwooferを使用しない場合は、電源スイッチを「オフ」ポジションにセットすることをお勧めします。

Power Cord connector: 付属の電源コードをこのコネクタとスイッチ・コントロール式ではない、通電しているACコンセントに差し込みます。



サブウーファーの設置に関する注意点

典型的なホームシアター・ルームの限られた領域でsubwoofersを使用する場合、部屋の中で起こる反射、定在波、吸収は低音域レスポンスにピークやディップを生み出し、それは部屋での音楽を聴く人の位置によって大きく変わります。ある場所に座った音楽を聴く人は、その位置でのレスポンス・ピークによって生じた過剰な低音を聞くことがあります。数フィートだけ離れた他の聴く人は、その位置でのレスポンス・ディップによって生じた相当低音が欠如したサウンドを聞く可能性があります。

室内のsubwooferの位置は(部屋の面積に加えて)これらの低音域レスポンス・ピークおよびディップの発生に大きく影響します。慎重にsubwoofersを設置するだけでは部屋全体の低音域レスポンスのピークおよびディップを補正することはできませんが、慎重に設置すれば、最大のレスポンス・ディップを排除またはかなり減少させることができます。

イコライゼーションは大きなレスポンス・ディップの補正に使用することはできないので、適切なsubwoofersの設置により、できるだけ部屋全体のレスポンス・ディップを減少させることが重要です。例えば、13dBのレスポンス・ディップを回復しようとしてイコライゼーションを使用すると、subwooferアンプがその周波数の20倍の出力を実現する必要があります。これはsubwoofersアンプを急速にクリッピング状態までオーバードライブする可能性があり、オーディオ・クオリティを著しく劣化させます。

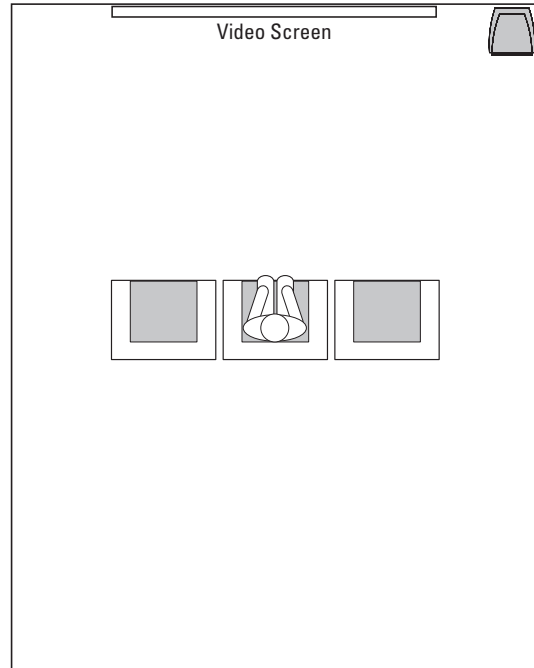
どの部屋でも、subwooferを部屋の隅に置けば大きな低音域レスポンス・ディップの発生を最小限にでき、ほとんどの大きな低音域レスポンス・ピークを生み出すこともできます。subwooferをこのように設置すれば、次に内蔵パラメトリック・イコライザー(PEQ)を使用して、最大の問題である周波数特性の異常を補正することができます。

弊社は部屋のサイズにかかわらず、マルチsubwooferの設置を強くお勧めします。シングルsubwooferでも、部屋全体のバス・パフォーマンスが少しは一定します。マルチsubwooferを使用すれば様々なリスニング位置のいくつかのルームモードをキャンセルでき、結果としてリスニングエリア全体の低周波サウンド・クオリティがより一定になります。さらに、多くの場合、大きなレスポンスディップ(たいていイコライゼーションによって補正することはできない)がなくなるようにシングルsubwooferを設置することは不可能です。2基または3基以上の適切に設置したsubwoofersを使用すれば、常にこうしたレスポンス・ディップを排除します。

壁の構造が反対側の壁に対して完全に同一であることはほぼ皆無なので、サブウーファーを部屋の一隅に設置するような、一般的な決まったやり方が実際にうまくいくことは希です。最高の解決策は、スピーカーの設置位置を試しながら、通常のリスニング位置で高解像度の測定をすることです。

シングルSUBWOOFERの設置

シングルsubwooferを設置する場合、部屋の座れる場所で最高のサウンドを得られる位置を見つけるために、異なった位置を試してください。前例のように、subwooferを部屋の四隅のどこかに設置すると深いレスポンス・ディップの数(イコライゼーションでは補正できない)が最も少なくなります。

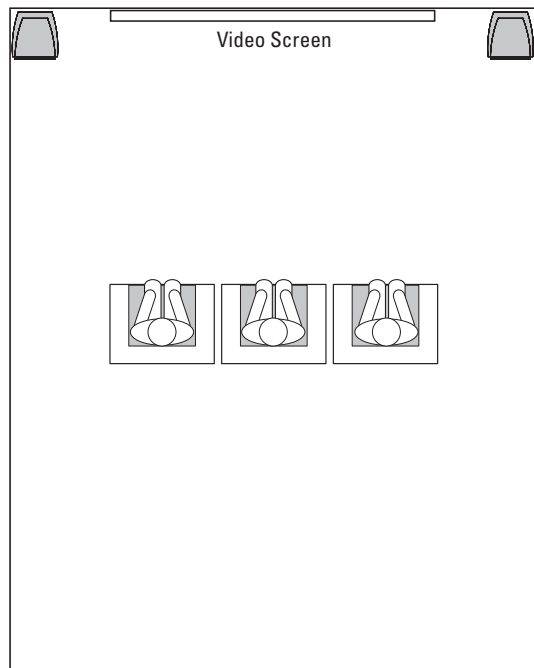


2基のSUBWOOFERの設置

2基のSubwooferの設置は部屋の座席の配置によって決まります。

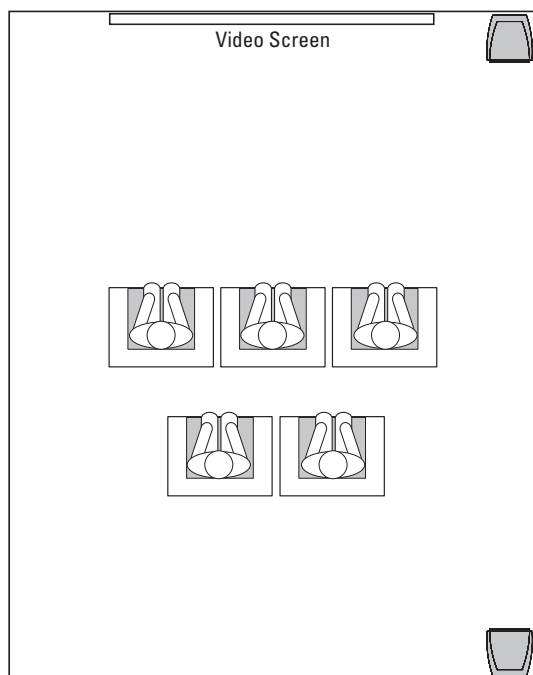
座席が1列の部屋

subwooferを座席の前面の両隅に設置すれば、座席の1列全体に最も安定したバス・パフォーマンスが得られます。



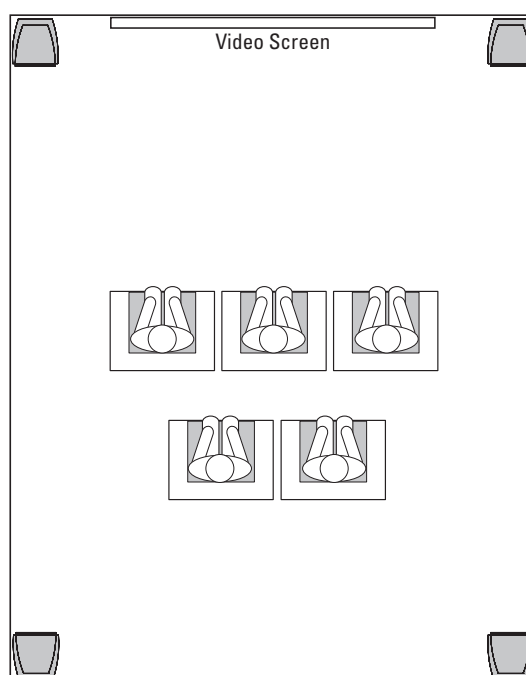
複数列の座席がある部屋

1基のsubwooferを座席前面のどちらかの隅に設置し、もう1基のsubwooferを同じ側面の後ろの隅に設置すれば、複数列の座席全体に最も安定したバス・パフォーマンスが得られます。



4基のSUBWOOFERの設置

4基のsubwooferを設置する場合は、部屋の4隅に各subwooferを置いてください。4つ以上の隅がある部屋では、リスニングエリアに最も近い4隅を選択してください。

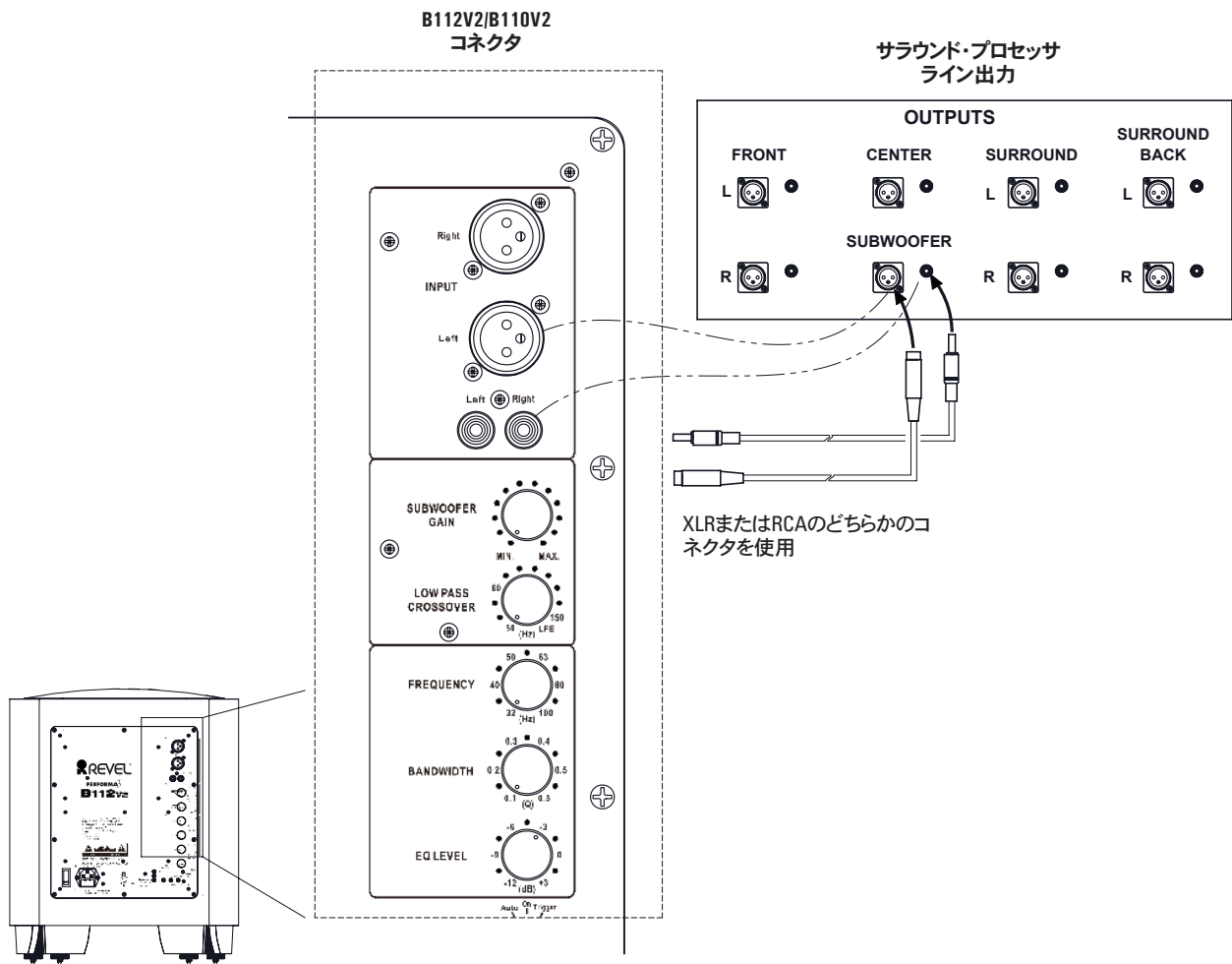


接続する

警告: 全てのシステム・コンポーネントの電源がオフにならない限り、絶対に接続したり、接続を切らないでください。

内部クロスオーバーのAVサラウンド・レシーバーまたはプロセッサへの接続

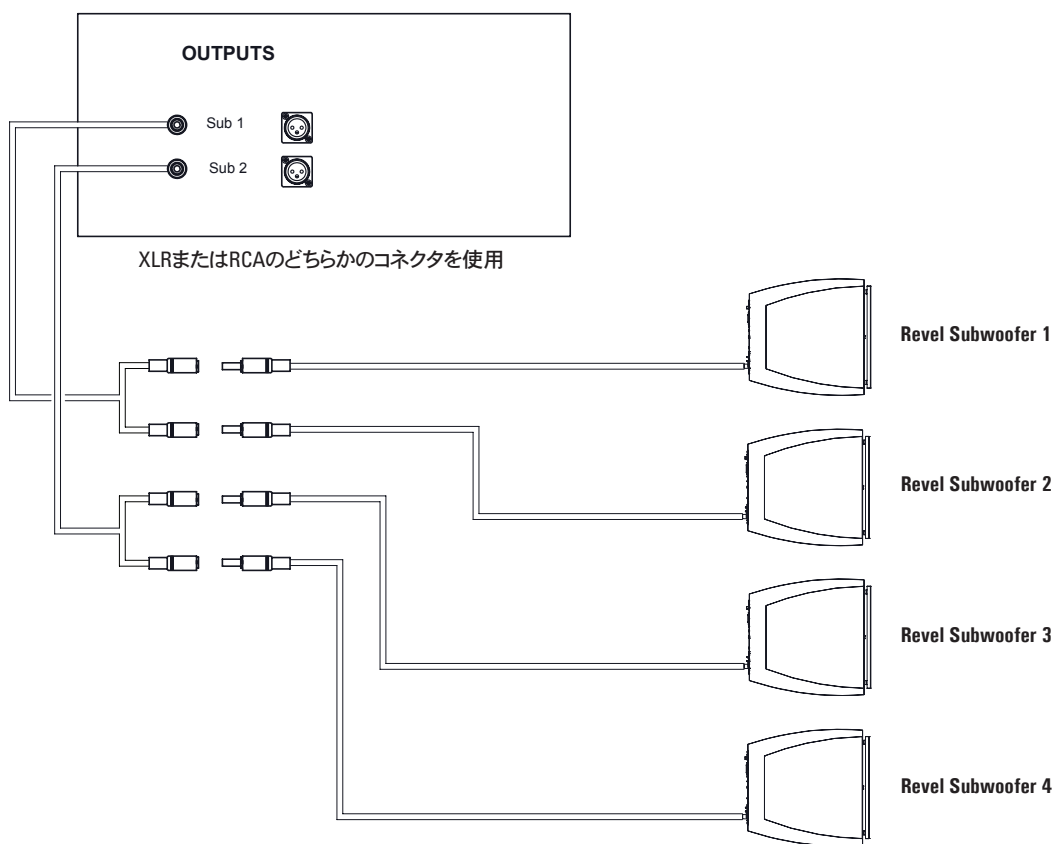
ローパスフィルターを通したsubwoofer出力をサラウンド・プロセッサに接続している場合、下図のようにsubwooferを接続します。subwooferの左または右の入力コネクタのどちらかに、バランスド(XLR)またはアンバランス(RCA)のいずれかの接続をすることができます。内部クロスオーバーをサラウンド・プロセッサに接続する場合、ローパス・クロスオーバー・コントロールつまみを「LFE」ポジションにセットします。



マルチSUBWOOFERの接続

2基以上のPerforma3V2 subwooferを設置する場合、レシーバーまたはプロセッサ出力に「Y」コネクタを接続します。ソース機器に2つのsubwoofer出力ジャックが付いている場合、このページに図示されているように最大4基のsubwooferを接続できます。

各subwooferのPEQは必ず別々に設定・調整します。次に、subwooferレベルとクロスオーバー周波数を一緒に調整してメインスピーカー・システムと調和させます。



トリガーおよび電源接続

トリガー入力/出力コネクタ

トリガー電圧を供給している別の機器と共にsubwooferの電源を入れたい場合は、モノラル3.5mmケーブル(別売)を使用して、別の機器のトリガー電圧出力コネクタに12V DCTリガー入力コネクタを接続します。

追加したPerforma3 subwoofer(または他のトリガー可能なデバイス)にトリガー信号を送るには、モノラル3.5mmケーブル(別売)を使って、2番目のPerforma3 subwooferの12V DCTリガー入力コネクタに、最初のPerforma3 subwooferの12V DCTリガー出力コネクタを接続します。「デジチェーン」方式で、同様にPerforma3 subwooferを追加接続してください。

注:12Vトリガーを使用してsubwooferの出力状態をコントロールする場合、各subwooferのパワーモード・スイッチが「トリガー」ポジションにセットされていることをご確認ください。

電源コード

全ての接続が正しく行われていることを確かめた後、subwooferの電源コードコネクタと、通電しているスイッチコントロール式でないACコンセントに付属の電源コードを差し込みます。

SUBWOOFERの手入れ

キャビネットの木製化粧板の仕上げには定期的なメンテナンスが必要ありません。ほこり、指紋、または他の汚れが付いたキャビネットの表面は柔らかい布で掃除することができます。マイクロファイバーの布と高品質カーワックスの使用が望ましいです。トランスデューサーに触れないように気をつけてください。

- 天面の外装部分には絶対にワックスを使用しないでください。使用すると、つや消しブラックが、ラッカー塗装された光沢のある外装部分になり、オリジナルの仕上げが復元できなくなります。この外装を掃除する必要がある場合は、乾燥した清潔で柔らかい布(マイクロファイバーが好ましい)で拭くだけにしてください。

グリルを掃除するには、吸引力を1番低くセットした電気掃除機に柔らかい毛先の掃除用アタッチメントを使用して丁寧に吸引してください。

警告:キャビネットを掃除するには、損傷を防ぐため、金属研磨剤、またはスチールウール製の布は使用しないでください。家具の研磨・洗浄液をキャビネットに直接スプレーしないでください。掃除用の布に吹き付けてから、キャビネットを拭いてください。トランスデューサーが損傷しないように、絶対に触ったり掃除したりしないでください。

仕様

B112V2/B110V2

型:	パワード subwoofer
低周波トランスデューサー	50mm二層銅パー・ボイスコイル搭載のコートされたペーパー/パルプコーン(12インチ-B112V2、10インチ-B110V2)、ベントされたセラミック製5マグネット部品およびベントされたダイキャスト・アルミニウム・フレーム
アンプ出力:	1,000W(RMS)、2,000W(ピーク)
入力音圧レベル/インピーダンス:	400mV(フルパワー)/20kΩ(バランスド);14kΩ(アンバランス)
クロスオーバー周波数:	LFEバイパス付き50Hz~150Hzローパスフィルター
低周波の拡張 (通常モード) :	34.4Hzで-3dB、30Hzで-6dB、27Hzで-10 dB (B110V2) 29.5Hzで-3dB、27Hzで-6dB、24Hzで-10dB (B112V2)
低周波の拡張 (拡張モード) :	30Hzで3dB、27Hzで-6dB、24Hzで-10dB (B110V2) 29Hzで-3dB、26Hzで-6dB、23Hzで-10dB (B112V2)
入力:	バランスド(XLR);アンバランス(RCA)
選べる仕上げ:	ハイグロス・ウォールナット、ブラック・アンド・ホワイト
寸法 (高さx幅x奥行) :	
B112V2:	18-7/16x15-15/16x16-9/16インチ(468mmx404mmx420mm)
B110V2:	16-7/8x14-5/16x13-7/16インチ(428mmx364mmx342mm)、グリル付き
重量:	
B112V2:	64.8ポンド(29.4kg)
B110V2:	53.8ポンド(24.4kg)

定保証書

Revel(レベル)ラウドスピーカーに欠陥がある場合は保証されます。保証書の有効期限はこの製品を購入した国の法律によります。お住まいの地域のRevel(レベル)販売店で保証書の有効期限と保証範囲を知ることができます。

詳細については、以下のサイトにアクセスしてください: REVELSPEAKERS.COM

Please visit REVELSPEAKERS.COM for additional language support on the user manual.

Veillez visiter REVELSPEAKERS.COM pour obtenir le mode d'emploi en d'autres langues.

Para obter o manual do usuário em outros idiomas, acesse REVELSPEAKERS.COM

Ga naar REVELSPEAKERS.COM voor de handleiding in andere talen.

Gå til REVELSPEAKERS.COM for bruksanvisning på flere språk.

Если вам требуется дополнительные версии руководства пользователя на других языках, посетите сайт REVELSPEAKERS.COM.

別の言語に対応したユーザーマニュアルを読むには、REVELSPEAKERS.COMにアクセスしてください。

사용자 설명서에 대한 추가 언어 지원은 REVELSPEAKERS.COM 에서 확인하십시오

请访问 REVELSPEAKERS.COM 以获取其他语言版本的用户手册。

Visita REVELSPEAKERS.COM para obtener el manual de usuario de soporte en idiomas adicionales.

Weitere Sprachfassungen der Bedienungsanleitung findest Du unter REVELSPEAKERS.COM.

Si prega di visitare REVELSPEAKERS.COM per i manuali di istruzioni in altre lingue.

Jos tarvitset ylimääräistä kieleen liittyvää tukea käyttöohjeesta, käy osoitteessa REVELSPEAKERS.COM.

Gå ind på REVELSPEAKERS.COM for at se betjeningsvejledningen på flere sprog.

Gå till REVELSPEAKERS.COM för mer information om språk i användarmanualen.

